

科目名称：	特別支援教育の理解Ⅱ	
担当者名：	太田 望	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	1
授業の目的・テーマ		
今までの生活や、実習等を通して気になってきた子供について、特別支援教育の視点で考える。体験やディスカッションをする中で、気付きを深めたい。また、グループワークを行うことで、支援が必要な子供に対して、教員がチームとして関わる必要性に気付けるようにしたい。		
授業の達成目標・到達目標		
子ども理解を深め、障害のある子の保育こそ保育の基本であることを体得できることを目指す。保育カンファレンスを通して、職員の協働性の価値を学ぶ。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP (2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP (3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP (4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身につけている。	○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP (1)					0
幼児教育DP (2)					0
幼児教育DP (3)					0
幼児教育DP (4)			80	20	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 特別支援学校講師	《経験年数1》 1年
	《内容2》 特別支援学校教諭	《経験年数2》 6年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
表現力・説明力	専門知識を活用し尚且つ具体的な内容でまとめた内容の文章を書いている	具体的な内容で、読み手に伝わりやすく、まとめた内容の文章を書いている	具体的な内容に少々かけるが、まとめた内容の文章を書いている	内容にまとまりがなく、抽象的で読み手に伝わらない文章を書いている
学びへの積極性	質問や意見など授業内で2回以上の自発的発言が認められる	質問や意見など授業内で1回以上の自発的発言が認められる	質問や意見など時々述べる程度、あるいは聞く姿勢が良い	授業中居眠りや私語などたびたびみとめられる

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 気になる子供について① ディスカッション・グループワーク	実習や実生活において、気になった子供について考え、レポートにまとめること。	30分
第2回 気になる子供について② プレゼンテーション	グループごとにプレゼンテーションを作って発表すること。	30分
第3回 気になる子供について③ プレゼンテーション	グループごとにプレゼンテーションを作って発表すること。	30分
第4回 合理的配慮について① 体験・グループワーク	合理的配慮について調べて、どんな事例があるかレポートにまとめること。	30分
第5回 合理的配慮について② プレゼンテーション	グループごとにプレゼンテーションを作って発表すること。	30分
第6回 合理的配慮について③ 体験・グループワーク	参考書の読み込み	30分
第7回 合理的配慮について④ プレゼンテーション	グループごとにプレゼンテーションを作って発表すること。	30分
第8回 支援の始まりと自立活動① ディスカッション・グループワーク	自立活動の6項目について調べ、読んでくること。	30分
第9回 支援の始まりと自立活動② プレゼンテーション	グループごとにプレゼンテーションを作って発表すること。	30分
第10回 教室の環境デザインと支援① ディスカッション・グループワーク	視覚支援について調べ、レポートにまとめること。	30分
第11回 教室の環境デザインと支援② プレゼンテーション	グループごとにプレゼンテーションを作って発表すること。	30分
第12回 教室の環境デザインと支援③ プレゼンテーション	グループごとにプレゼンテーションを作って発表すること。	30分
第13回 就学支援	参考書の読後、レポートにまとめること。	30分
第14回 他職種との連携の必要性	参考書の読後、レポートにまとめること。	30分
第15回 これからの特別支援教育	参考書の読後、レポートにまとめること。	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準
定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。 レポート80% 授業への積極的関与20%

課題に対するフィードバック
感想、提出物はコメントをつけてフィードバックする 最終課題については希望者に返却する

教科書・参考書
参考書：松本恵美子 藪内道子 高畑芳美 乳幼児期の気づきから始まる「安心支援ガイド」(明治図書)